

みずのき美術館コレクション展 2023

後期

霧

岩本勇
岡本由加
小笹逸男
中原安見子
福村惣太夫
山崎孝
山本一男
吉川敏明
渡部恒治

Collection Exhibition 2023.
"Fog"

Isamu IWAMOTO
Yuka OKAMOTO
Iitsuo OZASA
Amiko NAKAHARA
Soudayu FUKUMURA
Takashi YAMAZAKI
Kazuo YAMAMOTO
Toshiaki YOSHIKAWA
Tsuneharu WATABE

みずのき美術館



MIZUNOKI MUSEUM of ART
KAMEOKA

開館：金・土・日・祝

10:00 - 18:00

一般 400円 / 高大生 200円 / 中学生以下無料

主催：みずのき美術館（社会福祉法人松花苑）

後援：かめおか霧の芸術祭実行委員会、亀岡市

※10/20（金）休館

※10/21（土）・22（日）は、館内一部で亀岡祭関連の展示を行っております。

2023・10・6 / FRI → 12・24 / SUN

晩秋から初春にかけて、亀岡盆地一帯には「丹波霧」と呼ばれる濃霧が発生します。京都市内から電車で揺られて西へ向かうと、保津峡の辺りからだんだんと霧が立ち込め、最後のトンネルを抜けた先で景色が一変。それはまるで、現実から離れてまったく別の世界へ迷い込んでしまったような錯覚を覚えるほどです。細かな水滴が浮遊しているにすぎないこの現象に対し、人間は、様々な意味をそこに重ね合わせ、物語をつくり出してきました。

今回のコレクション展では、色づかい、素材、技法などから、霧を彷彿とさせる作品を中心にをご紹介します。抑制された色味や不明瞭な輪郭線は、より注意深く見ることを促し、その奥に隠された複雑な手数や高い集中力の痕跡が伝わってきます。

みずのき絵画教室：

障害者支援施設みずのきで、入所している人たちを対象に1964年に誕生。講師の画家・西垣篤一（1912-2000年）は当初、余暇利用、情操教育等を主とするクラブ活動として考えていたが、入所者の多様な反応や変化の兆しを感じ、その後本格的な美術教育へと転換する。作品は国内の美術公募展で入選を果たした後、1990年代に日本のアール・ブリュットとして紹介され、国内外から注目を集めた。みずのき美術館では、絵画教室で制作された作品約20,000点を収蔵、管理している。



1



2



3



4



5



6



7



8

- 山本一男 《ひとびと》1990年頃
- 小笹逸男 《トンネルに電車》1976年
- 中原安見子 《雪のある風景》1999年
- 岩本勇 《冬の森》制作時期不明
- 渡部恒治 《タイトル不明》1999年
- 福村惣太夫 《古墳》1985年-1989年
- 山崎孝 《人》1992年
- 吉川敏明 《家、飛行機、バナナ》制作時期不明

イベント情報

同時期開催「城跡芸術展 2023」

みずのき美術館で取り組んでいる画材循環プロジェクト「巡り堂」が展覧します。

2023年10月14日（土）～25日（水）会期中無休

10:00～17:00 観覧料無料

会場：丹波亀山城跡（大本本部）

〒621-0851 京都府亀岡市荒塚町内丸

主催：かめおか霧の芸術祭実行委員会、亀岡市



みずのき美術館



〒621-0861 京都府亀岡市北町18

TEL 0771-20-1888

FAX 0771-20-1889

www.mizunoki-museum.org



JR嵯峨野山陰線「亀岡駅」下車、南口より徒歩約8分
※美術館に駐車場はございませんのでご注意ください